

◇◇ 近畿病院図書室協議会 ◇◇

第21回 総会報告

近畿病院図書室協議会第21回総会は、1995年3月30日（木）午後2時より、淀川キリスト教病院オリーブ棟3階会議室で開催された。当日の出席は31機関、委任状提出機関は35機関であった。

白方誠彌会長の挨拶のあと、議長に重富久代（京都市立病院）、副議長に中嶋和子（西宮市立中央病院）、書記に浜口恵子（高槻赤十字病院）の各氏を選出し議案審議に移った。提出議案は7題でそれぞれ満場一致で可決された。

会長、事務局長は役員会で選出された現白方誠彌会長、現小田中徹也事務局長がそれぞれ承認された。役員改選では幹事10名、会計監査2名が選出された。

総会に先だって特別講演「訪問看護について」（高沢洋子氏・淀川キリスト教病院）が行われた。

議案日程

- 議案Ⅰ 平成6年度活動報告
- 議案Ⅱ 平成6年度会計報告・監査報告
- 議案Ⅲ 平成7年度活動方針
- 議案Ⅳ 平成7年度事業計画
- 議案Ⅴ 平成7年度予算
- 議案Ⅵ 役員改選
- 小 憩 -
- 議案Ⅶ 会長・事務局長承認

議案Ⅰ 平成6年度活動報告

はじめに

現在、社会全般のリストラの波が医療界にも浸透し、病院図書室においても前年来の業務量の激増と人員への圧迫が目立っている。そうした中で当協議会の会員数は増加の一途をたどり、現在103機関の医療施設を数え、病院における医学情報のネットワークとして大きな期待がかけられている。

1994年は当協議会が設立20周年にあたることから、これを記念するとともに、現在の病院図書室を取り巻く状況の変化、今後の展望を広く識者を招いて考える機会を持つことにした。そのため、4月から企画案を練り会場の確保をはかるなど準備作業をすすめた。また、集会の案内としては初めてポスターを作成し、全国の医学図書館をはじめ地区のネットワークや図書館関連の機関にも配布するな

ど、意図的に「病院図書室」の宣伝PR活動をした。そしてこの記念行事を「創立20周年記念フォーラム」とし、11月9日、京都市国際交流会館で開催した。当日は当協議会の内外から約90名の参加者があり、また、関連団体からの祝辞や祝電、関連業界からの参加や展示など多くの方々に20周年記念の行事を盛り上げていただいた。

当フォーラムは3部で構成され、まず、啓蒙的な意図をもって企画した「変化の中の病院図書室」をテーマとするシンポジウムでは、5人のシンポジストを招いた。今後の病院図書室の大きな課題となるであろうテーマについてそれぞれ報告と講演があり、予定時間を大幅に超過しての盛り沢山の内容であった。次に、特別記念講演には柏木哲夫大阪大学教授を招き、「老いを考え死を学ぶ」と題する講演をしていただいた。高齢化社会を迎える日本の医療を知る上でも、人生を知る上でも感銘深い講演であった。夕方からの懇親会には来賓や講師の先生方も交え、和やかなうちにもアトラクションが華を添えるなどはなやいだ宴となった。

なお、当協議会発行の季刊雑誌『病院図書室』14巻4号1994年（1995年2月発行）も「創立20周年記念号」として発行し、祝辞や業績などの記念記事の他、特集記事「病院図書室に求められる新たな機能」を掲載した。なお、総合目録の改訂と協議会名称については今年度も未解決の大きな課題として残された。特に総合目録の改訂については様々な要因があったにしろ、これを実現できなかったことは残念であり、会員の皆様には深くお詫びしなければならない。会員および編集に携わってこられた方々には申し訳ないことではあるがこれまでの集計データと編集作業を白紙に戻し、来年度からは根本的に対策を立てなおして、会員の期待に応えなければならない。

ところで、今年1月17日に起きた阪神大震災（兵庫県南部地震）は戦後最大の大惨事となった。会員においては幸い担当者は全員無

事であったものの、全会員の約2割、19の会員施設では書架の倒壊や什器の損壊、資料の散乱など、大きな被害を受けた。2月22日現在もなお、復旧や再建の見通しさえ立たない会員機関もある。また、被災は少なかった会員においても図書室担当者が病院機能の復旧や被災者救援に従事し、図書館機能が停止した例も少なくない。

当協議会では地震の翌1月18日、1月25日に予定していた第72回研修会を中止することにし会員へ案内するとともに、1月21日に西宮市内にある会誌の印刷所を訪れ無事を確認した。その後、1月23日からは阪神地区の会員へ被災状況を問い合わせた。1月31日にその集計内容を全会員に報告して、被災会員への相互貸借での文献申込みの停止と積極的な提供を促した。また、2月中旬からは事務局・幹事が分担して一部ながら被災地域の会員を訪れ状況の把握をはかった。なお、書架の倒壊した19施設の会員と、被害の大きかった神戸大学附属図書館医学部分館と兵庫医科大学図書館にはお見舞いとして金一封を包むことにした。

この間、各地の病院図書室関係者の方々から安否を気遣う問い合わせやお見舞いがあり、病院図書室研究会からは当協議会宛に多額なお見舞金をいただいた。また、会員間でも被災地域の会員の安否の問い合わせや、支援の申し出が相次いだ。これらのご厚情に心から感謝するとともに、今後、協議会としても被災会員の図書館機能の復旧には出来る限りの支援活動をはかっていきたい。

I - 1 各事業部報告

I - 1 - 1. 研修部

〔第1回名古屋地区勉強会〕

日時：1994年5月28日（土）13：30～16：30

場所：国立名古屋病院 図書室

会費：会 員 500円 非会員 700円

プログラム

1. 相互貸借

2. 業務量増加に関する問題
3. 雑誌の保存
4. その他

参加者：7名（うち非会員3名）

〔第71回研修会〕

日時：1994年7月9日（土）10：00～16：00

場所：神戸市立中央市民病院 5階501会議室

会費：会 員 1,000円

非会員 1,500円

プログラム

1. 病院図書室の基本業務(1)単行書の整理
講師 林 伴子
(社会保険神戸中央病院)
2. 病院図書室の基本業務(2)雑誌の整理
講師 田中 文子
(済生会兵庫県病院)
3. ビデオ上映
“生命を支える情報サービス
医学図書館”
4. 相互貸借業務 - 講義と実習 -
講師 徳田 雅子
(大阪府立母子保健総合医療センター)
5. 相互貸借業務 まとめ
講師 山室 真知子
(京都南病院)

参加者：29名（うち非会員1名）

〔施設見学会〕

日時：1994年10月18日（火）14：00～16：30

場所：大阪医科大学図書館

参加者：12名

〔第72回研修会〕

日時：1995年1月25日（水）10：00～16：00

場所：淀川キリスト教病院

オリーブ棟3階会議室

会費：会 員 1,000円 非会員 1,500円

プログラム

1. オンライン、CD-ROMを使っての
文献検索
- 効率のよい検索を行うために -

講師 伊藤 勝

(株)サンメディア大阪営業所)

2. 看護文献検索の指導法

講師 木下 久美子

(高山赤十字病院)

3. 〔看護の基礎知識〕訪問看護について

講師 高沢 洋子

(淀川キリスト教病院)

(当研修会は、1月17日の震災により開催を中止した。)

〔第73回研修会〕

日時：1995年3月30日（木）10：00～12：00

場所：淀川キリスト教病院

会費：500円

プログラム〔事例・研究報告会〕

1. CD-ROMマニュアルについて
山崎 捷子(淀川キリスト教病院)
2. 当院の文献依頼における代行サービスの
利用について
足立 郁子(小牧市民病院)
3. NACISIS-IRを利用して
木下 久美子(高山赤十字病院)
4. Macintosh で稼働する DIALOG 版
MEDLINE CD-ROM
小田中 徹也(国立京都病院)
座長 前田 元也(西淀病院)

参加者：29名

年度当初の計画では、春に新任担当者向けの基礎実務研修、秋に中堅担当者向け資料整理の実務、そして年度末には事例報告会に代わる企画として実務のステップアップを図るという構想をもっていた。

さらに目標として、

1. 会誌編集部との連携
2. 名古屋地区研修会実行委員との連携
3. 新入会員の研修会参加への要請
4. ビデオなどの視聴覚教材の活用

などをおこなった。

春の新任担当者向けの相互貸借業務を中心

とした基礎実務研修会は、無事終わることができた。しかし、研修部員自らが相互貸借業務に追われる毎日で研修会企画に携わる時間を確保するのが困難になり、計画の遂行は遅々として進まなかった。

秋季は、20周年記念事業と名古屋研修会との調整もあって、新館移転したばかりの大阪医科大学図書館見学会のみ開催した。予定していた中堅担当者向け資料整理の実務は、新年1月に開催することとしたのだが、阪神大震災により中止のやむなきに至った。このプログラムは次年度以降に実施したい。

次年度は、年3回の定例研修会、小規模勉強会、施設見学などを企画する予定である。

I-1-2. 編集部

今年度は14巻1号～4号を発行した。14巻4号は20周年記念号とし特集「病院図書室に求められる新たな機能」と協議会の15周年以降の活動のまとめを掲載し、増ページとして発行した。

今年度を総括すれば主な点は以下の通りである。1. 部長が交替した。2. 編集作業の業務の軽減、効率化をめざし、編集部員を増員し2グループ制とした。3. 編集方針を「これまでの方針を引き継ぎ、より病院図書室に根ざした図書館員に身近な記事作りをめざす」とし努力した。4. 発行日が大幅（最高2ヶ月半）に遅れた、以上の4点である。

1. 各号の発行日、頁数、発行部数

| | | |
|----------------------|------|------|
| 14巻1号 (1994/ 3/24発行) | 54P | 300部 |
| 14巻2号 (1994/ 7/ 8発行) | 46P | 300部 |
| 14巻3号 (1994/10/12発行) | 32P | 300部 |
| 14巻4号 (1995/ 2/16発行) | 102P | 300部 |

2. 発行経費

会誌14巻1号～4号に要した費用は1,515,070円であった。予算1,200,000円に対して、315,070円の赤字である。これは、記念号の発行をはじめ、各号とも予定より増ページと

なったことなどが挙げられる。

3. 広告収入

| | |
|-------------------|-------------------|
| 年間契約：ナカバヤシ(中頁・B5) | 39,279円 |
| サンメディア(裏表紙) | 80,000円 |
| 厚生社 (B 5 ½) | 20,000円 |
| ベルブック (B 5) | 40,000円 |
| 単発契約：ユサコ (B 5) | 12,000円 |
| ポルケ (B5×3) | 36,000円 |
| | <u>計 227,279円</u> |

4. 編集体制

部員個々の日常業務量の増大、不安定な勤務状況が続く中で、編集にかかわる実務量を分担・軽減するために、今年度より部員を2名増員し2グループ制とした。これによって実務量は一定軽減されたと思われる。しかし、まだまだ、部員個々の実務量は大きく、今後も編集システムの改善が求められる。とりわけ、出稿をフロッピーで行うなどレイアウトや校正の省力化を実現していきたい。

その他、編集部員のレベルアップをはかるため、作業にかかわる部内の学習会を企画していきたい。

編集会議は今年度3回、開催日等は以下の通りである。

| | |
|----------|---------------|
| 94年4月25日 | 淀川キリスト教病院 |
| | 編集体制、編集方針の決定他 |
| 94年8月1日 | 大阪通信病院 |
| | 記念号の発行他 |

95年3月8日 住友病院

今年度のまとめ、来年度の方針他

5. 編集方針

今年度の編集方針は「これまでの方針を引き継ぎ、より病院図書室に根ざした図書館員に身近な記事作りをめざす」としした。具体的には、トピックスであるニュース記事、新入会員紹介、図書館員の四季（増ページ）をはじめ、特集記事でも「図書館員の自己啓発」など、図書館員に身近な記事作りに努力した。

来年度も引き続き、今年度の方針を継承しより一層の内容充実に努力していく。

6. 発行について

14巻4号の2ヵ月半遅れを最高に、今年度は発行の遅れが目立った。部内のシステムの改善を中心に定期発行に最善の努力を行っていく必要がある。発行形態はこれまでの形態を継続していく。

7. 今後の課題

今後の課題についてはこれまでに述べてきたが、以下の2点に特に重点をおいて取り組んでいきたい。

(1)発行の遅れの改善

出稿のフロッピー渡しの実現をはじめとする部内のシステムの改善と、1年間のスケジュールを整備し明確にする。

(2)編集体制の定着

部員個々の日常業務量が増大し、しかも不安定な勤務状況の中で、編集体制を維持することが極めて困難な状況にある。それぞれの実情を理解しあい、実務を分散しながら協力して編集にあたっていきたい。

I-1-3. 統計調査部

【重複雑誌目録の発行】

a. 調査対象：1993年1-12月発行の重複雑誌

b. 作業経過：1994.9.1 調査用紙発送
(100施設)

1994.9.20 回答締切

1994.12.1 目録発送
(101施設)

c. 参加施設：32施設（参加率32%）

d. タイトル数：230誌(国内73種 外国157種)

e. 発行経費：3000円

*調査時期を遅らせたが参加率（データ提出率）は例年と変わらなかった。今後は調査から発行迄の期間短縮に努めたい。

【図書室統計調査報告書の発行】

a. 調査対象期間：1993年4月～1994年3月

b. 調査項目：施設の現況／図書室施設・建物／職員・組織／蔵書／経費／整理業務／利用者サービス／相互貸借／二次資料の所蔵／広報活動／視聴覚資料・所有機器

c. 作業経過：1994.6.15 調査用紙を発送
(100施設)

1994.7.15 回答締切

1994.9.1 報告書の発送

(99施設および他病院図書室ネットワーク8機関)

d. 参加施設：72施設（参加率72%）

e. 発行経費：13,000円(140部)

*調査用紙、報告書の形式を一部変更した。来年度も同じ頃に調査を行いたい。例年、督促されてから回答する施設があるが、経費節約のため、締切厳守にご協力下さい。

f. 文献の相互貸借（協議会全体の件数）

—受付—

協議会加盟 7343件

協議会加盟外 878件

上記区別無し 750件

合 計 8971件

—依頼—

協議会加盟 7399件

JMLA加盟館 9189件

海外(BLDSC等) 30件

その他 2547件

上記区別無し 3682件

合 計 22847件

*製薬会社の文献サービス自粛により、前年度に比し受付は約3倍、申込は2.4倍に件数が増加している。来年度は業者への申込状況も明らかにしたい。

I-1-4. 創立20周年記念フォーラム

日時：平成6年11月9日（13：00-19：30）

会場：京都市国際交流会館

参加者：88名（懇親会53名）

プログラム：（資料：当日プログラム参照）

会計報告：

I. 収入

| | |
|---------|--------------|
| 会費 | 156,000円 |
| | (2,000円×78人) |
| 懇親会費 | 176,000円 |
| | (4,000円×44人) |
| 祝儀金 | 40,000円 |
| 寄付金 | 13,000円 |
| テレホンカード | 54,400円 |
| | (800×68枚) |
| 合計 | 439,400円 |

II. 支出

| | |
|---------------------|----------|
| 事務費 | 144,505円 |
| カセットテープ(1,400円) | |
| 写真代(1,004円) | |
| ポスター制作費(72,100円) | |
| テレホンカード作成費(70,000円) | |
| 交通費(タクシー代) | 2,110円 |
| 郵送費 | 40,480円 |
| 案内状発送費(38,730円) | |
| 宅急便等(17,50円) | |
| 会場費 | 154,270円 |
| 会場使用料(74,800円) | |
| 吊看板等使用料(40,170円) | |
| 演壇等使用料(39,300円) | |
| 講師謝礼・交通費 | 222,000円 |
| 謝礼(110,000円) | |
| 交通費(112,000円) | |
| 接待費(ティーラウンジ) | 4,274円 |
| バック飲料 | 5,600円 |
| 懇親会 | 338,965円 |
| 食事代(298,365円) | |
| 琴演奏謝礼(20,000円) | |
| 琴セッティング代(20,600円) | |
| 合計 | 912,203円 |

III. 収入(439,400円) - 支出(912,203円)

=▲ 472,803円

I-1-5. 現行雑誌所在目録

1993年版の編集を1994年2月に終了し、5月に発行できた。その発送時に次回1994年版のデータ提出をお願いしたが、提出期限までに7割以上の機関からの提出があった。多忙な中であっても現行雑誌所在目録発行の緊急性、必要性を認識していただけたということであり、編集委員としてその責任の重大性を痛感させられた。

現在、新規入会機関の所蔵データをも含めた編集作業を順調に進めているので、昨年と同時期の発行予定である。

今回の1994年版への提出が諸事情でできなかった機関には、次回1995年版からの参加をお願いしたい。

I-2 組織活動について

I-2-1. 幹事会

今年度は、定例6回の他に創立20周年記念事業の企画準備のために特別幹事会を5月に開催した。次に示す日程のうち、主議題に各事業活動については挙げなかった

| 回 | 日程 | 会場 | 主議題 |
|---|----|----|-----|
|---|----|----|-----|

| | | | |
|----|----------|-----------|-----------------|
| ① | 94/4/14 | 淀川キリスト教病院 | 幹事役割分担、20周年記念行事 |
| 特別 | 94/5/11 | 淀川キリスト教病院 | 創立20周年記念行事の企画 |
| ② | 94/6/9 | 国立京都病院 | シンポジウムの企画 |
| ③ | 94/8/25 | 西淀病院 | ポスター、テレカの作成等 |
| ④ | 94/10/13 | 京都南病院 | 総合目録改訂の見直し |
| ⑤ | 94/12/7 | 淀川キリスト教病院 | 記念フォーラムの総括 |
| ⑥ | 95/2/9 | 国立京都病院 | 平成6年度の総括 |

近畿病院図書室協議会 創立20周年記念フォーラム

日程 平成6年11月9日(水曜日)

会場 京都市国際交流会館
〒606 京都市左京区栗田口鳥居町2番地の1
TEL.075-752-3031 FAX.075-752-3510

プログラム - イベント・ホール(1F)において -

13:00-13:10 開会の挨拶
近畿病院図書室協議会会長 白方誠彌

13:10-15:15 シンポジウム「変化の中の病院図書室」
司会 田伏 薫 星ヶ丘厚生年金病院副委員長
小田中徹也 国立京都病院図書室

1) 継続教育・臨床研修における病院図書室の役割
沢田真治 田附興風会北野病院臨床病理部長

2) アメリカにおける病院図書室: Mt. Sinai Hospitalの図書館を利用して
新島 京 国立京都病院脳神経外科

3) 病院図書室と図書館員の専門性
木下久美子 高山赤十字病院図書室

4) 日本医学図書館協会と病院図書室
青木孝雄 日本医学図書館協会理事
自治医科大学図書館

5) インターネット・コンピューティングの紹介とそのバックグラウンド
辰巳治之 札幌医科大学解剖学助教授
JCRN幹事主催・JPNIC 運営委員

総合討論

15:15-15:30 休憩

15:30-16:30 特別記念講演「老いを考え死を学ぶ」
柏木哲夫 大阪大学人間科学部教授
淀川キリスト教病院名誉ホスピス長
司会 白方誠彌 淀川キリスト教病院院長

16:30-16:35 閉会の挨拶
近畿病院図書室協議会事務局長 小田中徹也

17:00-19:00 懇親会 - 特別会議室(2F)において -

事務局: 〒612京都市伏見区深草向畑町1
国立京都病院図書室 気付
近畿病院図書室協議会
TEL.075-641-9161 FAX.075-643-4325

I-2-2. 役員会

平成7年2月22日、淀川キリスト教病院で開催した。当日は会長の身内の方に震災によるご不幸があったため、代理として事務局長の司会で始め、途中から会長の司会の下で会を進めた。今回は役員病院の管理者も多忙なところが多く担当者のみの出席であった。また、担当者も一部は被災によって出席できないなど、大震災による影響の大きい中で開かれた変則的な役員会となった。

例年どおり今年度の活動・事業報告をおこなったが、来年度の活動方針と事業計画では、被災会員への支援活動について専ら協議が集中した。早急に支援体制をつくり、協議会として会員の協力を得ながら出来る限りの支援をすることになった。また、来年度の会長と事務局長には引続き、現会長（白方誠彌淀川キリスト教病院院長）と事務局長（小田中徹也国立京都病院図書室司書）が選出された。

I-2-3. 会員の状況

会員数：103機関

（近畿外；30機関、病院外；7機関）

異動：入会；7機関

内訳（入会順）

38002 松山市民病院

28022 公立八鹿病院

26015 三菱京都病院

21004 大垣市民病院

28023 神戸市立西市民病院

30002 和歌山生協病院

28024 西神戸医療センター

退会；なし

I-2-4. 対外交流

近畿地区医学図書館協議会の第59回例会（5/13 大阪歯科大学）と第60回例会（11/11 北野病院）には例年どおり当協議会から出席した。しかし、平成7年2月7日の第18回実務者会議（大阪歯科大学）には大地震のため出席できなかった。病院図書室研究会からは、創立20周年記念フォーラムでの祝金と阪神大

震災へのお見舞いがあった。また、創立20周年記念事業関連ではJMLAおよび関係者からの祝辞や講師派遣などの協力を受けた。

このように、今年度の対外交流では創立20周年記念へのお祝いと協力、阪神大地震へのお見舞いと支援の申し出など、関連団体の温かい支援や厚情を忘れることのできない年であった。

I-2-5. 学会、論文発表

〔学会発表〕

(1)第11回医学情報サービス研究大会

（6月 岩手）

製薬会社の文献情報サービス自粛の病院図書室への影響の概要

京都南病院 山室真知子

(2)第11回医学情報サービス研究大会

（6月 岩手）

病院図書室の相互貸借・文献検索・スライド作成機購入について

—この1年間の動向—

京都南病院 山室真知子

(3)第11回医学情報サービス研究大会

（6月 岩手）

ラウンドテーブル〔患者サービスの展開〕

京都南病院 山室真知子

(4)第30回京都病院学会（6月 京都）

製薬会社の文献情報サービス自粛の影響と病院図書室

京都南病院 山室真知子

西村 和代

(5)第32回日本社会保険医学会（9月 千葉）

当院図書室における文献入手サービスの現状

社会保険中京病院 大橋真紀子

(6)第32回日本社会保険医学会(9月 千葉)
相互貸借業務をめぐる現状と問題点
社会保険神戸中央病院 林 伴子

(7)第32回日本社会保険医学会(9月 千葉)
医学中央雑誌CD-ROMの諸問題
星ヶ丘厚生年金病院 首藤 佳子
田伏 薫

(8)第44回日本病院学会(10月 横浜)
製薬会社の文献情報サービス自粛の影響
と病院図書室
京都南病院 山室真知子(共同演者)

[論文執筆]

(1)山村真知子(京都南病院)(共同執筆)
製薬会社の文献情報サービス自粛の病院
図書室への影響
病院53(11):1044~1049, 1994

(2)山村真知子(京都南病院)
製薬会社の文献情報サービス自粛による
影響 -病院図書室ネットワークによる
全国アンケート調査の分析-
情報管理37(9):759~770, 1994

(3)小田中徹也(国立京都病院)
近畿病院図書室協議会紹介
図書館年鑑1994年度版 日本図書館協会

I-3 会員委託サービスセンター

I-3-1. B L L Dセンター
(1994. 2. 16~1995. 2. 10)

1. クーポンの出納

| | |
|-----------|------|
| 前年度繰越クーポン | 43枚 |
| 今年度支出クーポン | -10枚 |

| | |
|----------|-----|
| クーポン残り枚数 | 33枚 |
|----------|-----|

2. 現金の出納品

| | |
|------------|---------|
| 前年度繰越金 | 30,440円 |
| 今年度クーポン利用料 | 21,000円 |

| | |
|----|---------|
| 残高 | 51,440円 |
|----|---------|

3. センターの利用状況

(1)利用件数 10件(うち謝絶1件)
(2)利用した施設 7施設
(内訳:大阪赤十字、松山赤十字、国立
大阪、府立母子センター、済生会兵庫、
済生会中津、小牧市民)

I-3-2. 規格用紙サービスセンター

(省略)

議案II 平成6年度近畿病院図書室
協議会会計報告・監査報告

(次頁)

議案III 平成7年度活動方針

「はじめに」でも触れたように、阪神大震災による会員図書室の被災状況は私たち協議会がかつて経験したことのない惨禍であった。来年度はまず、被災した会員図書室の再建に出来る限りの支援を講じていきたい。個々の会員の中では図書室が厳しい状況下にあることも思われるが、少しでも余裕のある会員には支援への積極的なご協力をお願いしたいと思う。

当協議会としても、会員の詳細な被災状況と求められる支援内容、他方では出来る支援の範囲や内容・方法など、双方を把握し支援体制を早急に確立していきたい。また会員間の支援において資料整理や情報機器の設定

平成6年度近畿病院図書室協議会会計報告

(収入の部)

単位 円

| 費 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 摘 要 |
|-----------------|------------------|------------------|--|
| 前年度繰越金 | <u>1,191,714</u> | <u>1,191,714</u> | |
| 会 費 | <u>2,170,000</u> | <u>2,325,000</u> | H 2～4 1 会員 45,000 H 5 7 会員 140,000 H 6 102 会員 2,040,000 入会金 10 会員 100,000 |
| 事業収入 | <u>1,188,500</u> | <u>803,000</u> | |
| 会誌購読会費 | (276,000) | (288,000) | H 5 1 会員 6,000 H 6 47 会員 282,000 |
| 雑誌総合目録 | (770,000) | (0) | |
| 研 修 会 費 | (142,500) | (47,600) | 第70・71回研修会会費 名古屋勉強会会費 |
| そ の 他 | — | (28,000) | 会誌バックナンバー売上 |
| 20周年記念 フォーラム | — | (439,400) | 参加費, 懇親会費、他 |
| そ の 他 | — | 239,140 | 銀行利息、広告掲載料 震災見舞金(病図研) |
| 合 計 | <u>4,550,214</u> | <u>4,558,854</u> | |

(支出の部)

単位 円

| 費 目 | 予 算 額 | 決 算 額 | 差引増△減 | 摘 要 |
|-----------|------------------|------------------|------------------|--|
| 総 会 費 | <u>85,000</u> | <u>63,750</u> | <u>21,250</u> | 選挙・議案書費用 特別講演謝礼・交 通費 |
| 事 務 費 | <u>90,000</u> | <u>89,644</u> | <u>356</u> | 振込料, 封筒印刷 ゴム印, 年賀状 |
| 通 信 費 | <u>120,000</u> | <u>108,980</u> | <u>11,020</u> | 事務局, 各部会連 絡, 会員宛通信費 入会案内, 他 |
| 交 通 費 | <u>300,000</u> | <u>212,780</u> | <u>87,220</u> | 監査, 目録委員会 幹事会、各部会, 兵庫会員震災見舞 |
| 事 業 費 | <u>3,040,000</u> | <u>2,721,746</u> | <u>318,254</u> | |
| 会 誌 発 行 費 | (1,200,000) | (1,515,070) | (△315,070) | 会誌14巻(1, 2, 3, 4) 印刷費, 発送料, 図書券, 他 |
| 研 修 会 費 | (240,000) | (125,360) | (114,640) | 第70・71回研修会 名古屋勉強会 見学会, 他 |
| 総合目録改訂版 | (800,000) | (0) | (800,000) | |
| その他の事業 | (300,000) | (169,113) | (130,887) | 年次統計調査発送 現行雑誌所在目録 作成・発送費, 他 |
| 20周年記念事業費 | (500,000) | (912,203) | (△412,203) | 会場使用料、送料 謝礼, 懇親会費他 |
| 資 料 費 | <u>150,000</u> | <u>55,132</u> | <u>94,868</u> | ビデオ「医学情報 の達人」, BLLD目録 |
| 雑 費 | <u>765,214</u> | <u>210,000</u> | <u>555,214</u> | 震災見舞金(21機関) |
| 合 計 | <u>4,550,214</u> | <u>3,462,032</u> | <u>1,088,182</u> | |

平成6年度 会計監査

単位 円

| 収 入 | 金 額 | 支 出 | 金 額 |
|-------------|-----------|-------------|-------------|
| 前年度繰越金 | 1,191,714 | 総会費 | 63,750 |
| 会 費 | 2,325,000 | 事務費 | 89,644 |
| 事業収入 | 803,000 | 通信費 | 108,980 |
| 会誌購読会費 | (288,000) | 交通費 | 212,780 |
| 雑誌総合目録 | (0) | 事業費 | 2,721,746 |
| 研修会費 | (47,600) | 会誌発行費 | (1,515,070) |
| その他 | (28,000) | 研修会費 | (125,360) |
| 20周年記念フォーラム | (439,400) | 総合目録改訂版 | (0) |
| その他 | 239,140 | その他の事業 | (169,113) |
| | | 20周年記念フォーラム | (912,203) |
| | | 資料費 | 55,132 |
| | | 雑 費 | 210,000 |
| | | 翌年度繰越金 | 1,096,822 |
| 合 計 | 4,558,854 | 合 計 | 4,558,854 |

上記決算については、会計監査を終了しました。

平成7年3月24日

会計監査 伊藤りつ子 ㊞
川内 一子 ㊞

など労力の提共には交通費の援助など、経済的な面でも予算の許すかぎり負担したいと考えている。いずれにしても来年度は「相互協力活動」において従来よりも一歩踏み込み、会員各位の協力と支援を得て、被災した会員の図書館機能の復旧と再建を最優先して事業を進めたい。

ところで、協議会の継続事業では研修会の開催と会誌『病院図書室』の発行、統計調査

を主な事業としてきたが、これらについては勿論従来どおり継続していかなければならない。ただし、ある程度は規模を縮小しながら効果的な内容のものを目指さなければならないであろう。それは被災への支援のためだけでなく、各会員の置かれている厳しい状況からも事業担当者の負担軽減をはかる必要があるからである。

したがって、事業内容・運営方法の全般を

再検討するとともに、新人の積極的な事業参加を促すことを考えていきたい。特に、1990年に着手した総合目録の改訂については、抜本的に検討し直して現会員の現在の所蔵状況を反映した総合目録の完成に向け再スタートを切らなければならない。来年度は、例えば協力活動のコンピュータ化やネットワークの拡大のような新規の事業計画には残念ながら着手できないであろう。しかし近い将来に期待をかけ、この1年間、被災した会員の一日も早い図書館機能の復旧と再建に、協議会一同が貢献していこうではないか。

議案Ⅳ 平成7年度事業計画

1. 阪神大震災による被災会員への支援
支援活動の組織化による情報提供と会員間支援の調整、援助
2. 医学文献情報活動の推進
「医学雑誌総合目録」改訂版発行の準備、現行所在目録の発行
3. 教育研修活動の継続
定例および兵庫と名古屋での研修会・勉強会の開催
諸研究研修会への案内と参加奨励
4. 出版広報活動の継続
会誌『病院図書室』の季刊発行（ただし1・2号は合併）
5. 年次統計等の調査活動
年次統計と相互貸借の調査
重複雑誌目録の作成

議案Ⅴ 平成7年度予算

(次ページ)

議案Ⅵ 役員改選

選挙管理委員により平成6年度役員改選が行われ、幹事10名と会計監査2名が選出された。新役員は以下のとおりである。

◎幹事

大橋真紀子（社会保険中京病院）
木下久美子（高山赤十字病院）
首藤 佳子（星ヶ丘厚生年金病院）
田中 文子（済生会兵庫県病院）
徳田 雅子（大阪府母子保健総合医療センター）
林 伴子（社会保険神戸中央病院）
前田 元也（西淀病院）
松本 純子（住友病院）
山室真知子（京都南病院）
山崎 捷子（淀川キリスト教病院）

◎会計監査

伊藤りつ子（和歌山労災病院）
松原 康子（藍野学院短期大学）
上川菜々子（大阪労災病院）

議案Ⅶ 会長・事務局長承認

会長は白方誠彌氏（淀川キリスト教病院院長）、事務局長には小田中徹也氏（国立京都病院司書）がそれぞれ承認された。

以上をもって第21回総会を閉会した。

議案V 平成7年度予算案

(収入の部)

(支出の部)

単位 円

| 費 目 | 金 額 |
|---------|-------------|
| 前年度繰越金 | 1,096,822 |
| 会 費 | 2,090,000 |
| 平成7年度 | @20,000×102 |
| 平成6年度未納 | @20,000×1 |
| 平成5年度未納 | @20,000×1 |
| 入会金未納H5 | @10,000×1 |
| 事業収入 | 392,500 |
| 会誌購読会費 | (270,000) |
| 平成7年度 | @6,000×45 |
| 研修会費 | (122,500) |
| 定例研修会 | @1,000×35×2 |
| 事例報告会 | @ 500×35 |
| 名古屋研修会 | @1,000×20 |
| 勉強会 | @1,000×15 |
| そ の 他 | |
| そ の 他 | |
| 合 計 | 3,579,322 |

| 費 目 | 金 額 | 摘 要 |
|-------------|-------------|------------------------------|
| 総 会 費 | 85,000 | 選挙費用, 議案書費用, 特別講演謝礼, 交通費 |
| 事 務 費 | 100,000 | 振込料, 封筒印刷年賀状印刷, 他 |
| 通 信 費 | 120,000 | 事務局・各部会連絡, 会員通知用 |
| 交 通 費 | 500,000 | 役員会, 幹事会, 各部会, JMLA近畿地区例会, 他 |
| 事 業 費 | 1,840,000 | |
| 会誌発行費 | (1,200,000) | 会誌「病院図書室」15巻1-4号印刷, 送料, 執筆料 |
| 研 修 会 費 | (240,000) | 定例研修会2回, 事例報告会, 名古屋研修会, 勉強会 |
| 総合目録改版準備費 | (100,000) | 雑誌総合目録改版(国内・外国編) |
| そ の 他 の 事 業 | (300,000) | 年次統計報告H6年重複雑誌目録H7年現行雑誌所在目録 |
| 資 料 費 | 150,000 | 医学洋書総合目録 |
| 雑 費 | 784,322 | 慶弔費, 接遇費, 支援活動等, その他 |
| 合 計 | 3,579,322 | |